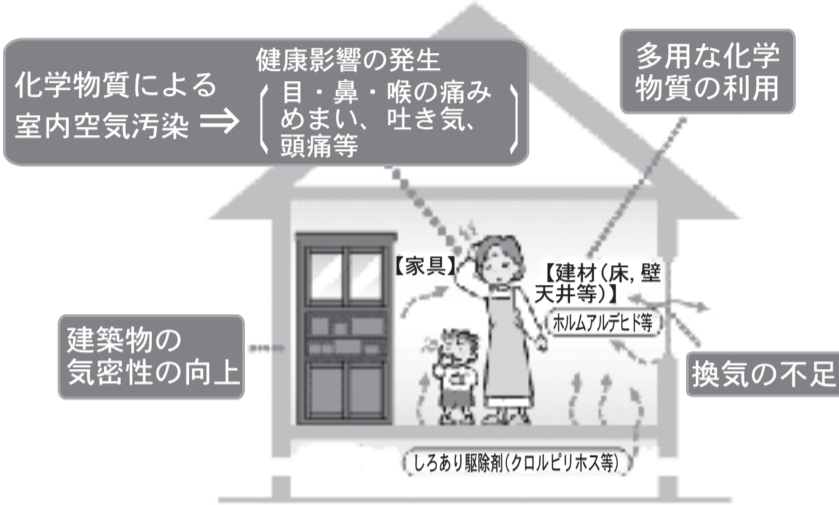


シックハウスにならない 健康な住まいづくりを

人間の身体を守るはずの住宅に、健康を蝕む化学物質が蔓延するようになって、住宅が原因となる病気Ⅱシックハウス症候群がクローズアップされるようになりました。住まい手が健康で暮せるように、健康基準法が改正され、対策も進められています。自らの健康を守るための予防も必要です

シックハウス症候群と過敏症

新築やリフォームした住宅に入居した際に、目がチカチカする、喉が痛い、めまいや吐き気、頭痛などの症状が出ることで。原因の一部は建材や家具などから発散するホルムアルデヒドやVOC（トルエン・キシレン他）の揮発性の有機化合物と考えられています。「シックハウス症候群」についてはまだ解明されていない部分もありますが、化学物質の濃度の高い空間に長時間暮していると健康に有害な影響がでるおそれがあります。また、シックハウスとは区別されていますが、



室内空気汚染の被害を防ぐための基本

- ① 汚染源の除去
 - ・禁煙、開放式ストーブの禁止⇒温水暖房、エアコン等。
 - ・掃除の徹底やカーペットからフローリングへの変更。
 - ・建材や家具の配慮（天然木、低放散材：JIS, JAS規格）。
 - ・殺虫剤や芳香剤の使用を控える。
- ② 換気の確保
 - ・厨房レンジフード、トイレ、浴室にファンを設置し運転。
 - ・居室に換気扇を設置、又は換気システムを設置し運転。
 - ・窓開放を心がける。
- ③ 空気清浄
 - ・空気清浄器を用いる。

室内濃度の低減

建材や家具、日用品などから様々な化学物質が発散されている状況で、現代の住宅は機密性が

様々な物質に接しただけで体調を悪くするという、化学物質過敏症の患者も増え続けているといわれています。住まいづくりに携わる施工業者やメーカーは一層気を引き締める必要がありますが、住まい手としても、家具や塗料が使われている日用品の選択だけでなく、住宅そのものの性能について、正しい情報を収集し、自ら身を守るといいう心がけを忘れないようにしたいものです。

が高いため、室内の化学物質の濃度が高くなつてしまいます。新築の場合には、竣工後二〜三週間程度通気させるとホルムアルデヒドの濃度が低減する事が確かめられています。また、普段の生活の中では一時間に一回五分程度の換気を行うと化学物質の濃度を低減させるのに効果的です。春から夏にかけて気温が上昇する時期が、揮発性化学物質の濃度が最も上がる時期なので、エアコン使用時でも窓明け換気を心がけたいものです。

仮住まい住宅をご利用下さい

リフォーム工事、新築工事などに伴う仮住まいにはKCCがご用意する仮住まい住宅をご利用下さい。場所は、白幡台住宅とKCCビル三階の二ヶ所です。家賃はともに5万円＋光熱費になります。駐車場もございます。お問い合わせは、当事務所までお気軽にお電話下さい。

図書コーナーオープン

この度、当会館二階ホールに図書コーナーを開設いたしました。貸し出しも行っております。本を借りる方は一階事務所で受け付けいたします。お気軽にご利用下さい。

